

大牟田市立中友小学校

1 本校のESDの特徴

大牟田市では、『「共生社会の構築」、つながりを理解し、かかわりを深める児童生徒の育成』を重視している。この基本的な考えを受け、一人暮らしの高齢者が多い校区の特色を踏まえ、児童が校区民生委員と一緒に高齢者宅を訪問したり、地域包括支援センターが実施する徘徊SOSネットワーク模擬訓練に参加したりしている。また、校区内に和菓子屋さんが多いという点も地域の特色であることから、饅頭の歴史を調べたり、実際に作ったりする活動を通して、地域への関心を高め、他者との関係性・社会との関係性を認識し、「つながり」や「かかわり」を尊重して、地域の一員として自分たちにできることを考えたり、実践したりする児童を育て、共生社会の構築を目指す取組を推進している。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

＜スローガン：地域とともに、未来につながる中友＞

生活・総合的な学習の時間を中心にした取組【福祉教育】【地域学習】

- 1年生（生活科）…「友だちや身近な人たちとなかよくなるう」
- 2年生（生活科）…「あそび大すき、あつまれ」「レッツゴー町たんけん」
- 3年生（総合）……「心の目を育てよう」「保育園の子どもとふれ合おう」
- 4年生（総合）……「大牟田よかところPR！子キッズまんじゅうをつくろう」
「二分の一成入式をしよう」
- 5年生（総合）……「みんながつながる中友校区を目指して～子ども民生委員活動～」
- 6年生（総合）……「高齢者福祉について考えよう」

※関係機関との連携……地域の民生委員、公民館連協、福祉関係機関、教育関係機関、校区内の和菓子屋さん

3 特徴的な活動事例

＜5年生「みんながつながる中友校区を目指して～子ども民生委員活動～」

（総合的な学習の時間35時間）＞

（1）目標

- ①地域の民生委員の仕事や役割について話を聞いたり、「子ども民生委員活動」を経験したりして、よりよい関わりを求めていくことの大切さに気づき、課題を見つけることができる。
(課題設定の能力)
- ②高齢者グッズを使って疑似体験をしたり、資料を活用したりして高齢者の体や暮らしについて調べることができる。
(課題解決の能力)
- ③自己の課題に応じて、調べ方やまとめ方を考えることができる。
(学び方・考え方)
- ④地域の高齢者との交流を通して、自分たちにできることを考えたり、実践したりする。
(主体的・創造的な態度)
- ⑤学んだことを生かし、日常生活の中で、お互いが思いやり、いたわりあうことのすばらしさに気づき、高齢者の方や地域の方々とふれ合おうとすることができる。
(自己の生き方)

(2) 実際の展開

- ① 民生委員の仕事や役割について学習した後、「子ども民生委員委嘱状」を受け取り、地域の方（高齢者宅など）への挨拶回りをして、子ども民生委員活動の見通しを持ち、めあてをつかむ。
- ② お年寄りの大切さについて考える。
 - 高齢者グッズを使って校内での疑似体験を行う。
 - 「絵本教室」大牟田市包括センターの方を招き、認知症についての学習を行い、認知症の方への接し方について考える。
 - 徘徊SOSネットワーク模擬訓練に参加し、民生委員さんと一緒になって、実際に声かけを体験する。
 - 校区敬老会で、高齢者の方々にできることを考えて準備をしたり、おもてなしをしたりする。
 - 高齢者福祉に役立つ「赤い羽根共同募金」について知り、住みよい町づくりのために街頭募金を行う。
 - 中友診療所、ふらねコパンを訪問し、高齢者の方と交流する。
- ③ これまでの学習についてまとめ、他学年や保護者・地域の方へ発信する。
 - ユネスコ子どもサミット
 - 学習発表会
 - ユネスコスクール記念集会
 - 有明高専での発表
 - 新聞発行（地域への配布）



(3) 本実践の成果と課題

- 活動をさせるだけではなく、活動後に整理・分析を位置づけたことで、児童の思いや気づきを大事にして、次の学習へと課題をつなぐことができた。子ども達から、街頭募金のチラシ配りのアイデアがでて、手作りのチラシを作成し、大牟田駅でのチラシ配りができたことは、主体的な学びの成果だと考えられる。
- 街頭募金では、募金してくださった方々に「ありがとうカード」を配布したり、笑顔で声をかけたりして、多くの方と積極的に関わろうとする姿が見られるようになった。
- 地域の方（民生委員さんや見守り隊の方、名刺を配布した高齢者の方々など）への日常的な挨拶ができる児童が増えてきた。
- 認知症サポーター講座やSOSネットワーク模擬訓練などへの保護者の参加が増えた。
- 年間計画の見直し（時間・内容・学年間のつながり）

4 本年度の成果と課題

- 成果
 - ・それぞれの学年で、教職員の共通理解のもと全学年でESDを実践することができ、地域の方との連携（校区民生委員・和菓子屋さんなど）が深まった。
 - ・各学年のESD掲示板を活用して発信したことは、自分たちの学びを振り返る場となり、来校された保護者にも好評であった。
- 課題
 - ・地域・他校への発信の仕方の工夫。
 - ・身に付ける力を明確にした学習の進め方と評価。